

発行所 日本キリスト教団 なか伝道所  
〒231-0026 横浜市中区寿町 3-10-13 金岡ビル 203  
Tel. (045) 671-1109  
振替 00200 - 1 - 47369  
E-Mail : naka@church.jp http://church.jp/naka/  
発行者 石倉夕子 (題字 松橋 順)

## 宣教方針

- ① 貧しい人々への福音に共にあずかる。
- ② 地域の問題に関わる。
- ③ 諸教会に呼びかけてゆく。

集会 主日礼拝 日曜日 午前10時30分より

## 宣教とは共に生きるために働くこと



ロナルド・ジュリアン宣教師

### ロナルド・ジュリアン宣教師に聞く

日本キリスト教団 神奈川教区には海員宣教協力委員会という組織がある。祖国と家族から長期間離れ、孤独で過酷な生活を強いられている海員をもてなし、助けが必要であれば助けることが、聖書が教える良き隣人であるのと考えから始まった活動をするための委員会だ。その活動を担っておられる、ロナルド・ジュリアン宣教師に話をお聞きした。

#### 海員宣教とは

海員とは「海ゆく人」という意味で、今は船員という言葉よりも多く使われている。海員への宣教とは何をするのかと言え、私たちは神様から使命を受けて派遣され、キリストの愛に押し出され、彼らの必要に応えることと捉えています。「旅人をもてなすことを忘れてはいけません。そうすることで、ある人たちは、気づかずに天使たちをもてなしました」。これは聖書の言葉です。例えばご希望があれば祈ること、家族との連絡、送金、寄港先での怪我や病気の対応、買物の手伝いや行きたい所・立ち寄りしたい所への送迎などをさせて頂いています。

日本では戦前から聖公会などが神戸や横浜でこの活動を始めました。港湾内への入りは特別な通行許可証が必要で、宗教的な立場で特別に立入りを許可される宣教師の力を借りる宣教活動や、宣教師の日本の生活を支えるため、神奈川教区では1983年に海員宣教協力会が設置されました。

訪船するためには税関で必要書類を出し、更に制限区域内の立入りのための手続きをし、乗船後、訪問者リストに記載する必要があります。船員さんのスケジュール次第ですが、本牧の民間の海員センターへ往復することもあります。ここでは時々色々なイベントがあり、運動会も行われます。私が行くのはたくさんコンテナが積んであるような船で、様々なトラブルが

あってもわずか一八人のクルーで対処します。機械化が進んでいても、大変過酷、多忙、危険と隣り合わせの労働環境です。ですから横浜港で手助けをするため彼らを待つ者がいることを周知するのは大切です。希望者と一緒に聖書を読んだり話をしたりラックスできる時をもちますが、今は誰かと連絡をとったりインターネットで様々な情報を得る手助けの需要が多いです。私が充実感を味わうのは、船員さんが残してきた家族と話をして嬉しそうにしているのを見る時です。また、繁華街などに行つて開放的な気分を味わつて頂くなど、気持ちの問題をやわらげるお手伝いをするのも私の仕事と心得ています。

私が赴任して日が浅い頃、ある船員さんが船の中で自死され、様々な対応をしたことがありました。とてもつらく、大変な任務であり、強く心に残りました。こうなる前に私にできることがあったのではないかと、ここにおいて何ができたのか、何が足りなかったのか、などたくさん考えましたが、このことを含め、私がここにおいて、何かができるということ、私が派遣されている理由だと思えます。「主は私たちにこう命じておられる。『私は、あなたを異邦人の光と定めた。あなたが、地の果てにまでも救いをもたらすためである』」。

#### 質問など

Q・最近はどうな国籍の海員さんが多いですか。

A・八〇%はフィリピンの方で、ロシア、

リトアニア、ミャンマー、バングラデシュ、トルコ、台湾、中国の方などもおられます。

Q：世界各国の船員さんは言葉と文化の違いがあると思いますが、どのようにコミュニケーションをとっていますか。

A：たいていの船員さんとは英語でコミュニケーションをします。英語を話せない船員さんの場合は英語を話せる船長や班長などリーダー格の方と話をします。時には警戒されることもありませんが、私は上からブッシュするために来たのではなく、彼らに何が必要なのかをとかく聞いて、奉仕に徹し、仕えるという気持ちでお手伝いをしています。そのようにして信頼関係を築きます。

Q：「助け手」という精神は最初の1897年からありますか。

A：最初の頃は上からの意識でしたが、今では下層の船員さんたちに寄り添うような活動になり、神様のための働きとして奉仕させて頂いていることを説明し、神様やキリストの話をする場合もあります。

Q：船と約束しないで急に訪ねるのですか。  
A：押しかけが基本ですが、修理や修復のため長く停泊する船なら何度も訪問できますし、定期便の船に本牧埠頭での私の存在を周知してもらい、他の船に伝えてもらうことで、私の電話にいつ横浜に行くかを連絡できます。日本では非常に珍しいですが、色々な国の埠頭には海員のための宣教師がいて、この職業自体は世界的には珍しくなく、世界中をまわる船の船員さんはここに

もいるなと思ひ、驚きません。

Q：労働が過密な上、インターネットがあると尚更厳しい労働環境だと思ひますが、停泊時間が少ない中でメンタルな部分はどうでしょうか。

A：家族と離れている寂しさとストレスを一番強く感じますが、反対に、彼らをとても頑張らせる動機になっているのも家族です。しかし家族と離れている寂しさとせつなさを本当に強く感じます。

Q：昔あったアメリカンチャーチの海員センターは今ありません。今後教区か教団が関わる事ができればと思ひますが、今、拠点場所について話し合われていますか。  
A：大黒埠頭で再開する小さな希望もありますが、今のところ具体的なセンターの話はありません。国や自治体が運営している施設は宗教活動ができません。拠点となる場所を与えられるよう、あつく祈りたいと思ひます。

Q：日本で布教する時、まさに見知らぬ船に乗り込むのと同じ思ひをされているのではないかと思ひますが、日本でキリスト教の活動をする時のご苦労を教えてください。

A：逆に日本の教会の方が大らかな受け取り方をしてくれるので、外国での活動や、その報告をする時よりも制限がなく、自由に活動させてくれるように感じます。

Q：訪問時に労働者が経営者を相手に賃上げのやり取りをしていたとしたら、神様は弱い者の味方であるので、宣教師の方は何

らかの形で働いている人たちの応援をするのですか。

A：宣教師としては船員たちの味方につくと思ひますが、船乗りはたいいてい船の学校を出て、船に乗る前にお給料を決めてから船に乗るので、船を訪ねた時に交渉しているという事はないと思ひます。

Q：なぜ宣教師がいなかったら実際の訪船活動ができないのですか。

A：日本人には訪船ビザが出にくく、外国人宣教師の枠ならスムーズに出るシステムだからです。時々事情や政権の事情によつてセキュリティのレベルが変わりますが、今日本人が専業で訪船活動をする事は非常に難しいです。

Q：実家近くの大きな港に外国船籍の船が入ると、親が危ないから出歩くなと言つたことがあります。政府の政策が日本人を船に乗せないよう抑制しているし、日本人の中にもそういう感覚があるのではないかと思ひます。

A：黒船の時代から外国船に対する感覚は変わらないのかもしれない。しかし、電子機器とかたくさんさんの工業製品の原料となるものや燃料は、彼らのつらい労働によつて日本に入り、それにより日本は豊かで贅沢な暮らしが可能になっていることをおぼえていてほしいです。

Q：仕事をしていますごく幸せや気概を感じることは何ですか。

A：私にこの仕事は無理だと思ひましたが、神様からこの仕事の提示がきたらNOと

いう答えはないし、道を示され、引き受けられれば後のことは神様が面倒をみてくださると言われました。苦手と思ひていましたが、ちゃんと舌が動き、耳が彼らの言葉を聞き、神様が私を通して働いてくださると感じ始め、今は遣わされていることに誇りをおぼえ、楽しく感じるようになってきました。

Q：宣教と布教はどのように違うのですか。  
A：布教はキリスト教の観念を広めていくこと、宣教は相手によらず、自分がキリストの器として業をただ示すことと捉えています。



船の中で海員と話をする  
ロナルド・ジュリアン宣教師

最後に

海員宣教のための献品のタオル、歯ブラシ、マフラー、軍手、靴下の使われ方は、このようにジュリアンさんの住所や聖書の言葉や、私たちはこんなことができますというメッセージをつけたシールを貼ったフリーウエルカムギフトとして海員センターなどに置かれ、賞品として使われたり手渡しされることもあります。ひげそりや石鹸なども歓迎ですので、余っている方はよろしくお願ひします。(まとめ 袴田文子)

使信

# 「もう犠牲はいらない」

石倉夕子

神は命じられた。「あなたの息子、あなたの愛する独り子イサクを連れて、モリヤの地に行きなさい。わたしが命じる山の一つに登り、彼を焼き尽くす献げ物としてさげなさい。」  
(創世記二二章二節)

神が命じられた場所に着くと、アブラハムはそこに祭壇を築き、薪を並べ、息子イサクを縛って祭壇の薪の上に載せた。そしてアブラハムは、手を伸ばして刃物を取り、息子を屠ろうとした。そのとき、天から主の御使いが、「アブラハム、アブラハム」と呼びかけた。彼が、「はい」と答えると、御使いは言った。「その子に手を下さな。何もしてはならない。あなたが神を畏れる者であることが、今、分かったからだ。あなたは、自分の独り子である息子すら、わたしにささげることが惜しまなかった。」アブラハムは目を凝らして見回した。すると、後ろの木の茂みに一匹の雄羊が角をとられていた。アブラハムは行ってその雄羊を捕まえ、息子の代わりに焼き尽くす献げ物としてささげた。

(創世記二二章九〜一三節)

神の命令とはいえ、アブラハムがイサクを燔祭(焼き尽くす捧げもの)として差し出すこの記事は、あまりにも有名です。創世記の中でも最も美しい物語の一つともいわれています。イサクはアブラハムが年老いてからできた愛する息子です。以前にはイシュマエルという息子もいましたが、サラとの間の子ではなく、イサクが生まれた後このイシュマエルはアブラハムから独立していきます。アブラハムの人生という歴史の中で、神が与えたイシュマエルを神がアブラハムから取り去ると

いう出来事です。そして今度は唯一残った息子イサクです。なぜこの様な理不尽な物語が書かれたのか。伝統的に三つの解釈が支持されています。

- ①アブラハムの信仰心を試すため。またそれは、このような事態に陥っても動じなかつた彼の偉大な精神を公にするためでもあつた。
- ②燔祭の場所として指示されたモリヤの山が神聖な地であることを示すため。ユダヤ教の伝承によれば、この出来事は現在、神殿の丘と呼ばれている場所です。
- ③イスラエル民族から人身御供の習慣を絶つため。この習慣はカナン地方ではモレク崇拜やバル崇拜などで一般的に行われていたという。

る、試されている。」という形で読まれてきました。そしてアブラハムという人物の偉大さを再確認するために用いられてきました。

私たちの信仰が試されている。アブラハムがイシュマエルを失い、そして今度は唯一残ったイサク、しかもイサクにはアブラハムの一族、言い換えればイスラエル民族の今後が約束されているはずなのに、そのイサクまで神は取り上げてしまわれる。あまりにも理不尽な神の要求です。ここでアブラハムの信仰が問われると同時に、私たちも人生の中で何度もその様な信仰が問われるという体験をします。その時に「全てを捧げる」「全ては備えられている」という所に立つことができるかという時にアブラハムのこの信仰を思い出して欲しい。神様は全てわかった上で備えてくださるのだ。というように神のすばらしさと、アブラハムの信仰の厚さを語れば今日の使信は終わってしまうのですが・・・。

ある著名人の釈明会見のニュースを見ながら。  
某著名人「このたびは、みなさまに多大なご心配とご迷惑をおかけし……」  
花「花は、そんなにこの人のこと心配してなかったんだけどねー。」

## ニュースねえ

(クリスマスプレゼントのことは年中心配な 幸前花 9歳)

もちろん人生の苦しみの中にある時、個人的な部分で慰めになることは確かですが、私はそれ以上に、イスラエル民族の神、イスラエルの民が信じた唯一の神という時、この様な読み方は少し違うのかなと感じています。イスラエルの神が他の民族の神と決定的に違うことが現れている物語としてこ

の話を読むと、イエスの信じた神の偉大さと、この神様だからこそ信じるに値するということに当てはまるのです。それが三つ目のイスラエル民族から人身御供の習慣を断つためです。人身御供、特に子どもの犠牲はイスラエル民族の周りの宗教、特に大きい宗教では多く見られたことです。(この時代だけ、この地方に限ったことではなく、宗教史上多くの場所で見られます)旧約聖書でも出エジプト記二二章二九節に「あなたの初子を、私に捧げなければならぬ」とあります。出エジプト記三四章一九節以下では全ての初子と言うように家畜も含まれるようになったことが書かれています。しかし後の時代、人間の初子の犠牲は禁止され死をもって罰せられます(レビ記一八章二節「あなたの子どもをモレクに捧げてはいけません」)。

レビ記は以前に学びましたが、捕

## まど

◆三月一日(木)

横浜スタジアムに隣接する横浜公園で、「東日本大震災かながわ追悼の夕べ」が行われた。あの日から五年が過ぎ、六年目を迎えた。かつて「戦後は終わった」という言葉があったが、今まさに為政者は「フクシマは終わった」と言いたいのであろう。震災からの復興も、原発

囚期以後の編集です。捕囚から解放された後、自分たちの国をいかにまとめていくかという中で書かれたものです。そのためレビ記や申命記を含むものがある牧師は「旧約聖書の皇国史観」と表現されました。そんな中で私が注目に値する物語だと思つたのが今日の物語です。この物語も編集は旧約聖書の中でも後期の編集だと思つます。大雑把にいうと申命記と同じ言葉遣いが多いのです。イスラエルの民族の宗教は他の民族の宗教と違うぞということをはつきりとさせた、良い方の物語だと思つます。また本来イスラエルの中では人身御供的な子どもの犠牲は無かつたのではないでしようか。小さい民族がそれも初子を犠牲にするのはとても大きな損失です。しかし捕囚期に至るまでの歴史の中で大きなものに巻き込まれる形で影響を受け行われたものだと思つています。その裏

事故の処理も、弱者を切り捨てながらの復興と処理ではないか。未だもとの生活の場に戻れない、母子の訴えを聞きながら、この国の恐ろしさと冷たさを感じる。それと同時にこの追悼の集いに集まつた人々の人熱れを感じ、新たな力と希望を感じた。そして、ここにこそ、神がいてくださるのだと・・。

(石倉夕子)

付けとしては弱いのですが、ある資料には当時未開の宗教(ローカルな宗教)には人身犠牲は無かつたという資料がありました。イスラエルの宗教は決してメジャーでなく、ローカルな宗教だつたと思つます。なので本来イスラエルの習慣には無かつたことと言えます。いずれにしても今日の物語で子どもの犠牲を求めないというのをアブラハムと言う人物の人生の物語を通して語っているのです。私たちは今日改めてそのことを学びたいと思つます。

そして今の時代、あまりにも私たちは無意識のうちに犠牲をしいているということに覚えたいです。遠い時代、そして遠い国のことではなく今のこの日本です。今年も神奈川教区でフレッシュユカながわが行われます。5年が過ぎ、すでに過去の出来事とされつつある福島の実現。触れてはいけない現実の中、放射能汚染と闘いながら日々の生活を送らなければならぬ人々。一部の利益のために子どもたちを犠牲にしてしまつている現実がこの日本にあるのです。私たちの信じる神は決してこのようなことを許してはいません。人身犠牲を禁止した神を信じて。その神が私たちを愛していてくれること。この事をしっかりと心に刻みたいと思つます。

## 編集後記

日本の豊かな暮らしは外国人の海員さんの犠牲の上に成り立っているにも拘わらず、国民間も相変わらず外国人との間にバリエーションをはっているのがとても残念です。海上生活の安全と帰りを待つご家族のことを祈ります。(は)